



# 青森河川国道ニュース

お問合せ先：国土交通省 青森河川国道事務所 地域づくり相談室 〒030-0822 青森市中央三丁目20-38 TEL017-734-4529

平成30年  
**100周年**  
岩木川改修事業

## 歴史編 VOL3

# 昭和21年～36年、十三湖囲繞堤の建設

### ■当時の状況

戦後、食料増産の国策によって、十三湖の土地造成と岩木川幹川の流末処理を目的とした囲繞堤工事が取り上げられました。十三湖囲繞堤は昭和21年に着手、昭和36年に完成しました。

現在は、水戸口突堤の効果と相まって、周辺地域の排水不良は著しく改善し、湿田は乾田化し美田に生まれ変わり、日本有数の穀倉地帯となりました。



昭和23年 十三湖への流入地点付近



平成8年 十三湖への流入地点付近

### ■長尾さんからの当時のお話

私が建設省に入った昭和30年に、ちょうど右岸囲繞堤が完成して、その年の秋口に左岸囲繞堤に着手しました。当時は、まだ機械化されてなくコンクリートの骨材などの運搬は木製のトロッコでした。堤防の土砂も木製トロッコに人力で積み込み、線路の上を馬に引かせたり人で押して運搬していました。昭和10年代には、蒸気機関車が走っていた事もあるそうです。

昭和30年頃になると6トンのディーゼル機関車に1m<sup>3</sup>積みの鋼製トロッコになりましたが、積み込みは人力でした。下流部は軟弱地盤のため正確な高さで作った堤防が翌年には沈下して高さが低くなっており、測量が間違っていたのではないかと上司からよくお目玉を頂戴したものです。先輩からは、測量機械を据え付けてしばらくすると人間の重さで長靴が潜ってしまう湿地帯(やち)の上に堤防が乗っかっているのだと聞かされたものです。津軽大橋の基礎杭は60mの深さまで打ち込んでいますが、地盤の軟らかい層が深く、今でも堤防を高くすると少しずつ沈下しています。右岸囲繞堤は、30年に竣工してから沈下や吸出しなどで被害が出始め、昭和41年頃からアスファルトの3面張り施工していますが、高さが違うところが出てきます。施工年次ごとに沈下していることが原因です。現在、波返しのある箇所は3回目の嵩上げをした姿です。左岸囲繞堤は、36年に2300m竣工しましたが、日本海中部地震でも被災して復旧していますが、当時の姿が残っている所は300m位。泣き笑いの青春を思い起こさせる現場です。



ながお ひろし  
長尾 廣氏

昭和11年、五所川原市金木町生まれ。  
昭和30年津軽工事事務所に採用、平成3年退官。  
その後、(社)東北建設協会にて10年間、岩木川を巡視。



### THINK RIVERとは？

身近な川を考え、皆が「水≒河川」のことを「意識」して欲しいという願い。ロゴマークの三本線は、「川」と「産」・「官」・「学(民)」をそれぞれの線で表現しています。